

北山だより

北山湿地(池金町)は、岡崎市自然環境保全条例に基づく自然環境保護区に指定されています。湿地およびその周辺でのすべての動植物の採取等の行為は禁止されています。これに違反した場合は、30万円以下の罰金が科せられる場合があります。貴重な自然環境の保護にご協力ください。

北山湿地を守る活動

【6月の作業内容(16日(土)9時～正午)】雨天により作業中止。集まった会員で湿地内を観察。

♣蒸し暑い日が続くこの頃。北山湿地に来ますと、ちょっとほっとします。多少湿気は含むものの、木陰の涼しさはまさに天然のクーラー♠7月の北山湿地では特に目に付く花などはありませんが、A湿地ではハッチョウトンボがあちこちに見られます。モウセンゴケの白い小さな花やミカツキグサも咲き始めました♣ハッチョウトンボに限らず、今の時期はトンボが主役でしょうか。一方で散策道など地面や朽ち木、積もった落ち葉、樹皮などに目を向けますと、オサムシやゴミムシ、コガネムシ、シデムシなどの仲間がせわしなく動き回っているかもしれません♠地味ですが、はねの部分が自動車のボディのようなメタリック調の色合いで、なかなか美しいものです。

のぞいてみよう昆虫の世界

今年も森の総合駅(榎山町)で「おかざき大昆虫展」が開催されます。子どもだけでなく大

人も夢中になる標本の数々。さらに、ヤゴやゲンゴロウなど水生昆虫を中心に生きた虫たちも年々増えています。回を追うごとに内容が充実してきていますが、今年は特に「北山湿地コーナー」が設けられる予定で、主にギフチョウおよびその保全活動が紹介されます。【期間】8月1日～26日(ただし月曜定休)【時間】8時30分～17時15分【内容】岡崎と世界の昆虫標本、昆虫クイズなど

こちらも毎年、昆虫展に併せて開催される「森の昆虫教室」。今年は例年の雨山ダム(雨山町)に加えて、今年開校した岡崎市ホタル学校(鳥川町)にも訪れます。雨山ダムの空き地で採集した虫たちをホタル学校へ持ち帰り、そこでそれぞれの虫について専門の先生方より解説していただく予定です。雨山ダムは目をつぶっていてもバツヤやキリギリスが捕まるような場所。今年も子どもたちの歓声が山々にこだますることでしょう。

【日時】8月5日(日)9時～15時(雨天時は内容を変更して実施)【会場】森の総合駅集合。バスで雨山ダム、続いてホタル学

校へ【内容】昆虫採集と観察【講師】大平仁夫先生(農学博士)ほか【対象】小学生以上の親子【定員】35人(抽選)【持ち物】弁当、飲み物、アミ、虫かご、筆記用具(虫眼鏡、ルーペなどあると便利)※会場付近には自販機などありません。熱中症対策を十分にとってください【申し込み】7月30日必着。はがき・FAX・Eメールで「昆虫教室申し込み」とした上、郵便番号・住所・参加者全員の氏名・電話番号を記入。〒444-8601 岡崎市役所自然共生課まで(FAX番号・メールアドレスは本紙欄外に記載)。



6月23日に開かれた北山湿地観察会。A湿地の休憩所で講師の解説を聞く。



7月1日に北山湿地を訪れた上高湿地保護の会の皆さん。おかざき湿地保護の会会員の説明に集中する。



やなが沢池の土手を舞うチョウトンボ。美しいですが、なかなか出会えません。



ヨツボシモンシデムシ。地面に目を落とせば、こんな虫たちにも出会えます。

《森の駅ホームページ》インターネットで「おかざき 森の駅」で検索すれば真っ先に表示される「おかざき 水とみどりの森の駅」ホームページ。自然とのふれ合いを求める方は必見です。観察会や講座、体験プログラムなど情報満載！※水とみどりの森の駅8月のプログラムは同ホームページまたは市政だより7月15日号をチェック。

北山湿地へのご意見ご感想

6月23日、岡崎市自然共生課は北山湿地初夏の観察会を開催しました。終了後、参加者18人にアンケートへのご協力をお願いしたところ、16人から回答をいただきました。以下は記入されたご意見ご感想および集計結果です。

◆大変勉強になりました。近場で観察できる場所があり四季を通じて見学したいです◆講師の方の会話やしぐさ等、とても心があられました。この湿地を守る影の方たちの奉仕の様子を知ることができました◆湿地を保護されている方に感謝です◆森の教室スペースが作ってあってよかった◆今後も観察会を

施してください◆春に保全作業をお手伝いさせていただいた場所が、明るくなっていたのもうれしく思いました。保全活動の大切さがわかりました。自然の大切さをもっと多くの人に知ってもらいたいです◆湿地の木道が歩きやすく、木道を設置された方のご苦勞を思い感謝の気持ちで一杯です。こんなすばらしい自然があるのを観察会で知りました。小中学校の授業に採り入れて勉強の場として活かしてほしい◆違う季節に花を見に来たいです◆初めて北山湿地に来ました。いろいろと教えていただきありがとうございます



リュウブの花と在来種のクマバチ。今では外来のタイワンタケクマバチが生態系を脅かしています。胸の毛が黄色ではなく黒色です。

した◆専門の先生方、保護の会の会員の方の説明があっちこちで聞かれてとてもよくわかりました。

【性別】男5人 女11人【年齢】40代1人 50代3人 60代7人 70歳以上4人 無回答1人【北山湿地に訪れるのは何回目か】初めて7人 2回目1人 3回以上8人【北山湿地を何で知ったか(複数回答)】観察会3人 ホームページ1人 知人から3人 その他9人(市政だより)【本日の観察会の内容について】満足16人【本日の観察会の時間(3時間)はどう思うか】ちょうどいい16人【北山湿地の良いところ、観察会で良かったところ(複数回答)】ミズゴケ5人 花11人(トキソウ、ササユリ、ウメモドキ、コモウセンゴケ) 樹木10人(バイカツツジ、ハンノキ) 生き物10人(ハッチョウトンボ、ヒメタイコウチ、モノサシトンボ、ムカシヤンマ、カワムツ、シマアメンボ) 整備状況4人(木道)【北山湿地の悪いところ、改善すべきところ(複数回答)】駐車場1人 トイレ4人 看板1人

きたやま歳時記②

スギはヒノキ科?—変わりゆく植物の科名①

スギ(スギ科)はヒノキ科?カエデ(カエデ科)はムクロジ科?ショウジョウバカマ(ユリ科)はメランチュウム科?

近年、植物界においてもその分類が変わってまいりました。つまり、私たちが常々親しんできた科名が大きく変わろうとしています。

私も草花・樹木の名前を覚えるときには、似たもの同士という類似性を基にした系統分類から、形態的な特徴を中心として、たとえばユキノシタ科のウメバチソウ、ノリウツギというように「〇〇科の××」と科名と種名をなるべく同時に覚えるようにしてきました。そうしたことでわからない植物に出会ったとき、その特徴から調べやすく、同定できることも多くありました。

その科名も100年以上も前に(1890年代)エングラーにより提唱された分類体系(新エングラー体系)によるもので、日本では牧野富太郎博士の植物図鑑や一般の植物図鑑、現在の教科書でも採用されています。欧米など世界では、クロンキストの植物分類体系が今までは

ショウジョウバカマ



主流ということです。それ以前にもリンネやダーウィンなどの先人の研究の上に、今日の分類体系が確立してきたということも学びました。

かつて、スギ科のコウヤマキが独立したコウヤマキ科に、モクレン科のシキミがシキミ科に、など科名の変更はあり、その都度頭の中も書き換えてまいりました。それが最近では、植物の分類にまたまた新しい手法が採り入れられるようになってきました。(次号へ続く)(文・写真上/おかざき湿地保護の会 小玉公明)



7月、正式にラムサール条約に登録された、豊田市の矢並・上高・恩真寺の3湿地。このうち、上高湿地の保護保全団体「上高湿地保護の会」の会員約20人が7月1日、北山湿地を視察に訪れました。上高における本格的な保全活動は始まったばかりで、湿地内をめぐる木道もこれから。課題は山積のようですが、皆さん意欲は満々で、案内したおかざき湿地保護の会の会員に熱心に質問したり、木道などの整備状況を記録したりと、登録地にふさわしい湿地のあり方を模索していました。おかざき湿地保護の会としても、今後とも交流を重ね、互いの知識や技術の向上を図りたいと考えています。